

ショートステイ（おくらの里）

利用者1人1人の意思及び人格を尊重し、居宅における生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮し、利用者の心身機能の維持並びに家族の身体的及び精神的負担の軽減を図り、在宅生活の継続を支援できる様に取り組みます。また、利用者が利用中に介護者や他利用者と相互に社会的関係を築き、自律的な生活が送れる様に支援します。

1. 在宅生活の継続支援

- (1) 自宅環境・利用の背景を考慮し、本人・家族が何を必要としているかのニーズをくみ取り、可能な限り応えられるように努力します。また、家族の抱える不安や悩みに寄り添い、気軽に相談できる機関として、必要かつ適切な助言や援助を行うことで、介護者（家族）の負担軽減を図り、安心して在宅生活が継続できるよう支援します。
- (2) 居宅介護支援専門員の作成した居宅サービス計画に基づき、利用中のサービス計画に反映させることで、退所後の生活の継続性を意識し、生活と介護を一致させた自立が促進できるケアに取り組みます。また、居宅からの情報を元に利用者の心身状態を的確に把握し、利用中における健康状態の把握に努めます。
- (3) 利用者個々の身体状況や精神状態に応じたケアを提供し、介護事故防止の為、安全な介護が実践できる様に取り組みます。また、利用者の病状等に急変や、その他緊急事態が生じた場合は、必要な措置を講じると共に、家族・担当介護支援専門員に速やかに連絡し状況説明を行います。

2. ケアの充実と質の向上

- (1) サービス担当者会議や日頃の連絡などを通じ、家族や居宅介護支援専門員より情報を収集し、得た情報を職種間で共有することで協働して個別性のあるケアを提供し、ケアの質の向上に繋がります。
- (2) 利用者の心身状況を勘案し、それに応じた活動の場を設けることで、利用中、楽しみや役割などを持って過ごして頂き、利用者の心身機能を低下させないよう努めます。また、ユニットという家庭的な環境で他利用者と交流を持ちながら馴染みの関係作りが行えるよう、過ごし易い環境作りを行います。
- (3) 利用者が一人の人間として尊厳を持って生活できる様に身体拘束ゼロ、高齢者虐待防止、QOLの向上を推進し、職員1人1人が不適切なケアに対する正しい認識や知識を持ち、随時ケアの改善や振り返りを行うことで、利用者の尊厳を守り、自尊心を傷つけられることのないよう信頼の得られるケアに取り組みます。
- (4) 利用者・家族からの要望や苦情を真摯に受け止め、迅速かつ誠実に対応すると共に、多職種と連携し再発予防策を講じます。また、情報を開示し透明性の確保と今後のサービス改善に繋がります。

3. 利用者の確保と緊急時の受け入れ

- (1) 既存の利用者を大切に、継続して利用して頂けるように個々に合ったサービスを提供します。また、日頃から各居宅介護支援専門員からの連絡や相談を出来る限り受けるよう努力し、利用のリピーターの確保に努めます。
- (2) 日々変化する空室状況を的確に把握し、現場の受入体制を見極めながら、担当の居宅介護支援専門員との連絡を密に図り、稼働率を意識した円滑なベッドコントロールが行える様に努めます。
- (3) 緊急の利用依頼時は、各関係機関・部署との綿密な情報交換を行い、受け入れの迅速な判断ができるように、体制を確保します。